

センターだより

第70号

令和5年3月10日 発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

副所長あいさつ

副所長 芋田 智恵子

日頃より当センターの事業に御理解と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

今年度の研修講座につきましては「“これからの社会を生き抜く力”を育む“教師力”の向上を目指した研修講座」をテーマとして実施しましたところ、受講者延べ3,588人の参加があり、1月19日までに、157講座を無事に開講することができました。新型コロナウイルス感染症対策をしつつも、本年度は基本的に集合による開催を継続させることができました。教職員の皆様におかれましては、学校での業務御多忙中、積極的に来所のうえ受講していただき、心から感謝申し上げます。

また、訪問型研修として実施している「校内研修等講師派遣事業」につきましては、学校等への指導主事等の派遣回数193回、参加者数延べ4,119人で、今年度から始めたオンラインによる対応は、14件でした。多くの御活用をいただき、嬉しく思います。

さて、先日公表された令和5年度の県予算の内容は、その17.1%が教育委員会所管分であり、そのうち人件費が83.9%を占めています。県全体の人件費は20.3%ですから、いかに教育は教職員という人財で成り立っているのかがわかります。青森県では、人は財（たから）であると捉えて「人財」と表します。その人財を育成する、その人財が自らも成長する、当センターはそのような場所です。校種や教科を超えて協議する機会もあり、悩みや相談ごとを聞いてくれる指導主事や受講者の仲間もいます。特に初任者研修の際には、できるだけ多くの指導主事が寄り添う体制で臨んでおります。受講者は、普段とは違う場所で、違う人々に会うことで、自分と同じ悩みを抱えている人がたくさんいることを知り、自分は一人ではないと確信し、

自分とは違うアイデアに刺激を受けることができるのです。ホッとして、リフレッシュして、学校へ戻ったとき、その力と愛情は存分に子どもたちへ向けて注がれたことでしょう。

ところで、年度始めの広報の所長あいさつにもありましたように、当センターは開所から25年が経過しました。平成10年度に、青森県教育センター、青森県情報処理教育センター、特殊教育センター、こころの教育相談センターをすべて統合し、青森県総合学校教育センターとして、ここ青森市大矢沢に設置されたのですが、この統合により、研修講座を始めとする様々な教育支援事業が総合的な連携のもとに行われるようになりました。勿論、施設もこれだけの機能を兼ね備えるものですから、県有施設の中でも大規模でありますし、研修や教育相談に必要な設備もとても充実しております。しかし、やはり25年という年月の間には、徐々にではありますが老朽化もします。そこで、長寿命化対策事業として、昨年度は外部改修工事を、今年度は敷地内車路の改修工事を行いました。研修講座や教育相談に来所された方々には、騒音などの御迷惑をおかけしましたが、皆様の御協力により、事故もなく工事は完了いたしました。そして、令和5年度以降は、大研修室の設備改修や空調設備等様々な設備の長寿命化対策を講じていく予定です。このように、当センターは、将来に向けてより一層教職員の皆様の支援できるよう、ハード面からも、受講者のためのよりよい環境作りに努めているところです。

これからも当センターは教職員の皆様と共に子どもたちの未来を創るために、所員の心と力を結集して学校を支援して参ります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



来年度予定されている新規講座の紹介

D20 特別支援学校 授業力アップ講座	特別支援学校採用3年目以降の先生方を対象に、PDCAサイクルによる授業改善を行い、授業力アップを目指します。受講者のニーズに応じて、担当指導主事が実践をサポートします。 【講師】 ※前期のみ 弘前大学教育学部 准教授 天海 丈久 氏 
前期:7月31日(月) 中期:9月～11月に1回実施 後期:12月6日(水)	【次のような先生方にオススメ！】 ○授業づくりで悩んでいる先生 ○普段の授業実践を実践研究としてまとめたいと考えている先生 ○研究会等での発表に向けて実践をまとめたいと考えている先生 ○中堅教諭等資質向上研修の選択講座で迷っている先生
D32・D33 NetCommons 活用講座	本講座は、県立学校の先生方を対象とし、NetCommons 3を活用した学校ページの作成方法について研修を行います。CMS（コンテンツ管理システム）を使用することにより、Webページの構築・運用を複数人で行えるため、非常に効率的であり、リアルタイムな情報発信に役立ちます。令和5年度は6月、10月の2回講座を実施しますので、奮ってご参加ください。 
D32 6月20日(火)～21日(水) D33 10月3日(火)～ 4日(水)	【次のような先生方にオススメ！】 ○NetCommons 2からの移行予定の管理者 ○新規にNetCommons 3でページ運営を始めようとお考えの管理者 ○学校Webページの担当になり操作方法に不安を抱えている方
D35 幼保小連携 基礎講座	午前は、幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、特別支援学校（幼稚部、小学部）の先生方を対象に、アプローチカリキュラムを視点にした保育参観をします。午後は、文部科学省初等中等教育局幼児教育課幼児教育調査官の横山真貴子氏を講師に迎え、幼保小の架け橋プログラムの重要性を理解する講義を行います。また、幼児期と児童期をつなぐ架け橋期のカリキュラムを意識した協議を通して、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた取組について研修し、指導力の向上を目指します。
11月10日(金)	【保育参観】 学校法人 青森愛育学園 愛育幼稚園 【講師】 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 幼児教育調査官 横山 真貴子 氏 

掲載された新規講座を含むすべての研修講座の詳細については、3月1日付けで当センターホームページにアップしておりますので、そちらも御覧ください。



青森県総合学校教育センター
イメージキャラクター

アプセくん

研修講座の実績

●研修区分別修了者数

【基本研修】

・初任者研修	(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校)	計 830名
・新規採用教員研修	(養護教諭、栄養教諭・学校栄養職員、事務職員、実習講師)	計 44名
・経験者研修	(フォローアップ研修、中堅前期研修、中堅前期・後期研修、中堅後期研修)	計 827名

【職務研修】

・職務研修Ⅰ	(校長研修、教頭研修、県立学校事務長研修、教務主任研修他)	計 344名
・職務研修Ⅱ	(中学校進路指導担当者研修、校内研修担当者研修他)	計 187名

【専門研修】

・教科研修	計 567名
・教科外研修	計 789名

今年度は、157講座を開催しました。これらの講座に対するアンケート集計の結果、「内容は分かりやすかったか」や「実践の参考になったか」について5段階評価の最高評価「5」と回答した受講者は8割おり、受講者にとって深い学びのある研修講座を提供できたと考えております。

また、教科研修の9割の講座において、ICTを活用した演習等に取り組みました。

次年度は、令和の日本型学校教育の実現及び学校における働き方改革の推進を踏まえ、ICT等の効果的な活用に向けた研修講座を準備しております。皆様の受講をお待ちしております。

校内研修等講師派遣事業の実績

派遣数 **193件** 受講者数 **約4,100名**
本事業を御活用いただき、ありがとうございました。

派遣校種・機関別内訳

小学校	54件
中学校	29件
高等学校	39件
特別支援学校	10件
教育機関	14件
研究会・協議会	47件

テーマ別内訳(依頼件数上位のもの)

授業力向上と授業改善	78件
授業におけるICT活用	33件
不登校への対応	17件
特別な配慮を必要とする児童生徒への支援	13件
授業のユニバーサルデザイン化	9件
人間関係づくり(構成的グループ・エンカウンターなど)	8件
SOSの出し方教育	7件

【講義資料の一例】

テーマ：授業力向上と授業改善

観点別学習状況の評価の改善について

「資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組ませるバリエーション評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとまらぬ、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。さらには、総合的な評価のみならず、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、子供たちの資質・能力がどのように伸びているかを、例えば、日々の記録やポートフォリオなどを通じて、子供たちが自身が把握できるようにしていくことも考えられる。」

効果的評価 事前に学習者の実態を把握し、指導計画を立てるための評価
形成的評価 学習の過程で学習者ごとの進捗確認したかを確認する評価
総括的評価 授業の最後に学習成果を総括し、全体的に把握するための評価

テーマ：授業におけるICT活用

これまでの教育実践 × ICT = 学習活動の二層充実
例) 地学基礎の学習内容【地球の環境(日本の自然環境)】

- 大利用紙と付箋の準備が必要なく、グループ討議ができる。(付箋の編集も書き込みも容易に可能)
- 討議後のものを電子データで保存できる。
- 各組で話し合った結果を全体に提示し、結果を発表することができる。

パズルマップ

アンケート結果(5段階評価平均値)2月17日時点

研修の構成は適切か。	4.85
研修の内容は分かりやすいか。	4.91
実践する上で参考になったか。	4.88

学校サポート事業の担当者より

研修講座や校内研修終了後、「もう少しアドバイスをいただけませんか?」というお声をいただきました。本当に嬉しかったです。教科指導等サポート事業に切り替え、その先生とは継続して情報交換し(オンラインによるミーティング)、実践例と一緒に考えることができました。

今年度は、「学習指導要領改訂を踏まえた〇〇科の授業づくり」、「指導と評価の一体化(観点別学習状況の評価)」、「授業におけるICTの効果的な活用方法」など、これからの授業づくりに欠かせない内容に関する研修への派遣数が多くなりました。また、教育相談や特別支援教育の分野では、「いじめを許さない学校づくりに必要な視点を得たい」、「困り感のある児童生徒を支援するための具体的な方法を学びたい」といった御要望をたくさんいただきました。実施後のアンケート結果から、校内研修等の目的を概ね達成できたと感じております。

今年度と同様、来年度もオンラインによる実施が可能です。皆様からの御要望に応えられるよう準備を進めて参りますので、積極的に御活用ください。